按暈者貨物運送之車、人以引之、又京師牛車、使牛引之也、相傳往昔山城鳥羽里、有天台僧、常修護摩祈寶祚、天子勅許乘牛車、土人窺暇、借其車、運米薪、竟多造牛車、便于日用、如今上下鳥羽里、有八十有餘牛車、其遺風矣、彼僧不知誰人也、疑鳥羽僧正乎、

〔木工權頭爲忠朝臣家百首雪〕車中雪

はづかしやその荷ぐるまのうしよはみ雪つみぬればひきぞわづらふ

〔延喜式三十九內膳〕凡作園所須、〇中略車二兩、年別請

〔日本靈異記上〕僧用涌湯之分薪而與他牛役之示奇表緣第廿

尺惠勝者、延興寺之沙門也、法師平生時、涌湯分薪詘一束、與他而死、其寺有一牸、而生犢子、長大之後駕車載薪、无憩所駐、控車入寺時、不知僧遇寺門曰、惠勝法師者、炎經雖能讀、而不能引車、牛聞之流淚、長息忽而死、

〔西宮記臨時十〕與奪事

宗全記云、長久五年五月廿五日、使廳政也、〇略中同日小日記云、今日見物、車馬總以不來、是京中疾疫之患、繁昌之故歟、廳公文辛櫃送市事、以囚人爲擔夫、恒例也、而依無禁獄之囚、積雜役車云々、

〔宇治拾遺物語十一〕これもいまはむかし、かつら川に身なげんずる聖とて、まづ祇陀林寺にして、百日懺法おこなひければ、ちかき遠きものども、道もさりあへず、おがみにゆきちがふ、〇略中その日のつとめては堂へ入て、さきにさし入たる僧ども、おほくあゆみつゝきたり、さりに雜役車に、この僧は紙の衣袈裟などきてのりたり、

〔本朝世紀〕久安二年十月廿八日甲子、今日法皇、〇羽鳥被供養新造御堂、〇略中臨供養期、調車數十輛、卽載吳錦越布之類、其車如世間文車體、以板造之、不懸牛、人以爲僧侶之施物、實進上皇、〇德崇之料也、

〔明月記〕天福二年〇文元年曆七月廿九日丙寅、近日三位家信卿牛童、與陰陽師文平と云物鬪諍、依文平